

霜月号 道徳だより

テーマ:全校道徳のすすめ



京都市道徳教育研究会
会長 前田 恵美
広報部 副部長
尾花 陽 一朗

みなさんの学校で全校道徳を実践されたことはありますか。道徳の授業は学級で行われることが一般的ですが、全校児童が一つの同じテーマで考え、話し合う全校道徳という取組があります。コロナ禍で全校集会自体が開きにくい時期ではありますが、「道徳科は学校の教育活動全体を通じて行うもの」(学習指導要領総則第1の2の(2))の一つとして、実践にチャレンジされてみるのはいかがでしょうか。

縦割り活動の充実を

全校道徳といっても、一人一人がしっかりと道徳的価値に向き合い、自分の考えを伝える場を設定することは大切です。そこで、縦割りグループで話し合う時間を持ちます。

縦割りグループのリーダーは当然高学年(6年生)です。高学年児童には全校道徳を行う意味や、果たしてほしい役割を伝えます。高学年としてのリーダーシップを育てることにもつながります。私は以前の実践で、6年生に事前に次のようなメッセージを送りました。



(略) 6年生のみなさんはもう分かっていると思いますが、道徳の時間は「心を成長させる」時間ですね。一人一人の色々な考えを伝えあい、一人一人が自分の心とも対話し、考えを深め、心を成長させる時間です。そんな道徳の時間を、1年生から6年生までのフレンドリー班で取り組みます。

算数や国語は、6年生が1年生に“教える”ことができます。でも道徳は、“教える”のではありません。1年生は1年生の、6年生には6年生の気づきがあります。そしてそれを、互いにいっぱい語り合い、心を成長させてほしいのです。

もちろん、6年生だから、下の学年よりもたくさん知識もあるし、下の学年が気づかない視点で考えることもできるでしょう。どうぞそれを、いっぱい伝えてください。それが下の学年の人たちにとって「あっ、そういう考え方もあるんだな」「ぼくも6年生のお兄ちゃんと同じことを思った！」など、たくさんの新しい気づきや納得につながっていきます。

そんな有意義な道徳の時間を作るために、6年生のみなさんにお願いがあります。それはリーダーとして、話し合い活動をしっかり進めていってほしいということです。

難しいことをするわけではありません。まずは自分から、体育館で聞いたお話をもとに自分が考えたこと・感じたことを話してみてください。そして下の学年の子の意見を聞いてください。一言二言、その子の意見にコメントできるといいですね。(略)

道徳の授業として

道徳の授業として実践するので、教職員でねらいをしっかりと共有します。事前に教職員で略案を共有し、発問をぐっと精選します。教材は、絵本や教師の演示・動画など、低学年でも考えることのできる分かりやすい資料と端的な発問にします。

中心発問について投げかけた後、高学年児童がファシリテーターとして話し合いをリードします。教師は担当するグループの話し合いを見守りながら補助をします。必要に応じて、ねらいを外さないように個別に問いかけるためにも、しっかりねらいを理解しておくことが重要です。

導入から中心発問は縦割りグループで、終末を自教室で行うなど、話し合いだけではなく、「自己の生き方について考えを深める」ふり返りの時間も意識的に取り入れるようにしたいですね。

道徳を学ぶ姿を学ぶ

異学年集団で話し合う場面をもつことで、児童は発達に応じて多様な考えに触れることができます。「自分のやるべきことをしっかりやる(努力と強い意志)」ことがどうして大切なのか、低学年児童は「先生に言われたらちゃんとやらなきゃいけない」と答えるかもしれませんが。そんな時に高学年児童が、自分の経験やこれまでの道徳の時間で学んだことをもとに、たとえば「〇〇が難しかったけど、あきらめずに頑張ったらできたよ。」「自分のためにも、しんどくても頑張ることが大事だと思う。」といった言葉を伝えると、低学年児童は、「ぼくも〇〇をがんばっているよ。できるまでがんばろう。」と新しい気付きにつながります。

これは決して、発達段階に応じた内容項目の価値理解を越えることが目的ではありません。自分自身をふり返ったり、自分の経験から多面的・多角的に考えたりする姿に触れることで、「あっ、こんな風に考えるといいんだ」と新しい思考の仕方に触れることで、普段の道徳の学びをより深めることにつながっていくのではないのでしょうか。

価値に対する考えを見つめなおす

では、高学年の立場から見て、全校道徳に新しい学びはないのでしょうか。そんなことはありません。もちろん、低学年の素直な気付きから、はっとさせられる場面もあるでしょう。それ以上に、縦割りグループのリーダーとして話すために、改めて道徳的価値を考える機会にもなります。普段の同学年同士の授業ではなかなか考えが深まりにくい児童も、リーダーとして低学年に問いかける中で、必死に自分にも問いかけます。低学年と同じ考えをしていたのでは(それがいけないわけではありませんが)グループを導くことはできません。「何で〇〇って大事なんだろう。」と自分事として考えを深めていきます。

高学年を育て、信頼する

教師が主導するのではない全校道徳は、グループによっては話し合いが難しい場面もあるかもしれません。いきなり全校道徳をするのではなく、日常から縦割り活動を充実させ、高学年としての自覚を高める指導が何より重要です。高学年の担任の先生はもちろん、グループを担当する先生からもしっかり評価されることで、高学年児童は自信をもち、たくましく成長します。教師が信頼することで、高学年児童もその信頼に少しずつ応えようとしてくれます。児童が「関わり合う喜び」を感じながら、児童主体で学びを深める姿を目指して、時には辛抱強く見守ることも大切だと思います。

いかがだったでしょうか。実践するには、特活主任や道徳推進教師の連携、全教職員の理解が求められ、すぐにできるものではありません。ですが、「社会を構成する一人一人が、高い倫理観をもち、多様な価値観の存在を認識しつつ、他者と対話・協働しながら、よいよい方向を目指す資質・能力」(学習指導要領より)の育成に資するものではないかと考えます。コロナが落ち着いたら…チャレンジしてみませんか？

実践した指導の流れです。

『明かりが見えた(京都をおそった室戸台風)』(夢いっぱいより)をもとにしました。

9月	主題名	大切な命	内容項目	D生命の尊さ
	教材名	京都をおそった室戸台風	出典	自作教材
	学習のねらい	室戸台風について知り、被災当日を知る佐々木さんのお話を聞くを通して、生きることの大切さを知り、生命を大切に生きようとする心情を育てる。		
	本時の評価	「これからも伝え継いでほしい」と語る佐々木さんの気持ちや、今も毎年慰霊碑にお参りする人たちの気持ちに共感し、生命を大切にしていこうとする思いをもっている。		
学習活動(発問)		*留意点		評価の視点(評価の方法)
導入	1 地域活動委員会の児童が元西陣校で見つけた記念碑について、疑問に思ったことを述べる。	*委員会の児童が不思議に思ったことを出発点にすることで、自分たちのすぐ近くで何があったのだろう、という思いをもてるようにする。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 記念碑について委員会の児童が取材・調べ活動をし、委員会の児童から不思議に思ったことを発表する時間をもちました。 </div>			
展開前段	2 PP資料(次ページ参照)で室戸台風のあらましについて知る。 ○室戸台風についてお話を聞いて、どんなことを思いましたか。	*室戸台風の恐ろしさを実感できるよう、実際の数値や写真などを提示する。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 事前に室戸台風を体験された方にインタビューをし、映像を編集して見せました。 </div>			
	3 佐々木さんの言葉に触れ、話し合う。 ☆「これからも伝え継いでほしい」という佐々木さんの言葉がありました。佐々木さんほどのような思いでこの言葉を言ったのだと思いますか。 ・台風の恐ろしさを忘れず、大切な命を守ってほしいという思いだと思います。	*佐々木さんのインタビュー映像を流すことで、切実な思いに触れられるようにする。 *6年生リーダーが中心となって話し合いを進める。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ここから縦割りグループで話し合いに入ります。体育館の広さの関係で、半数のグループは教室に移動しました。 </div>			
展開後段	4 命の大切さや生きることのすばらしさについて自分の思いをまとめる。 ○この時間で考えた「命を大切にすること」について自分の思いを書きましょう。 ・今、命があることが、とてもすごいことなんだと思いました。 ・災害に備えることが大切だと感じました。 ・命を守るために自分ができていることをしていきたいと思いました。	*グループで交流した意見も参考にしながら自分の思いをワークシートに書く。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自教室に戻り、ワークシートに書いたことをもとに交流する時間をもちます。 </div>			
終末			・生命を大切に生きようとする思いを発言したり、書いたりしている。 (発言内容・ワークシート)	

